

京都経済4団体 新年賀交歓会 立石会頭挨拶文 「新たな知恵と勇気を」

(はじめに)

新年おめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年5月に村田前会頭から引継ぎ、京商会頭に就任いたしました。よりよい地域社会づくりに少しでも出来るよう務めてまいりますので、よろしく願いいたします。

今年の干支の「子(ね)」は新しい命の芽生えを象徴しているそうです。

源氏物語千年紀を迎える本年が、京都の伝統や文化がこれまで以上に花咲き、我々の新たな知恵と勇気で新しい産業の芽が数多く生まれ、たくましく伸びゆく一年になることを願っています。

(新しい時代の芽生え)

最初に、私は子年の新しい命の芽生えを、新しい時代の芽生えと受け止めています。5つの例を挙げてみますが、明らかに21世紀を象徴するような、大きな時代の転換期にあります。

資源・エネルギーの高コスト時代へ

世界の金融・株式がオイルマネーによって左右される時代へ

世界が中国・アジアなどの新興国の成長に左右される時代へ

低炭素社会など持続可能社会への時代へ

世界に類のない少子高齢化による日本の人口減少社会への時代へ

日本企業や地元企業には、このような時代の転換期にあることを前提とした未来志向の経営が求められると考えています。今年の景気については、いろいろな予測が出されていますが、「過去の景気の読み方が通用しない時代」を迎えており、重要なことは「自分で考える」こと、そして、京都らしい「オンリーワンの経営をする」ことに尽きるのではないかと思います。

去年は、都市と地方、大企業と中小企業の格差が指摘されましたが、今年は、先ほど申し上げた、今が時代の転換期にあることを前提とした経営が出来るか否かが、大企業、中小企業を問わず、企業間の「成長格差」や「利益格差」に大きくつながっていくと考えており、それによって「賃金格差」も大きくなっていくと考えております。

(アジアの転換期)

さて、今年は、アジアの国々において大きな転換期が訪れます。中国では北京オリンピックが開催され、めざましい発展を続ける中国を世界の人々が目の当たりにすることになります。韓国や台湾では新たなリーダーが誕生しますし、日本でも G8サミットが開催され、地球環境・世界平和など、これからの人類のあり方について議論されます。外相会合の開催地として京都は、より一層世界の注目を集めることとなります。このような機会を活かして、アジアの成長ダイナミズムを取り込み、アジアと一緒に成長していくことが地元企業にとっても重要ではないかと考えております。

(京都議定書の目標達成を)

また、今年は京都議定書の約束期間(2008-2012)が始まる年でもあります。ポスト京都の枠組みづくりの交渉に全ての主要国が参加することになったのは確かな前進です。京都でも、社会や産業や、生活のあらゆる分野で、省エネ、省資源などに取り組み、2012年までに目標を達成する努力が大切です。そして、その努力で得られる環境技術が日本の中長期的な経済成長に結びつくことを確信しています。

(成長による格差是正)

一方、我が国に目を向けますと、都市と地方の格差是正が課題となる中で、限られた財源をいかに配分するかが論点となっています。しかし、今、最も重要なことは、財源を増やすための経済

成長重視の路線を再確認することではないかと思います。日本経済のパイを大きくしなければ分け前が少ないわけで、経済規模を大きくしないと日本のこれからの社会が維持できないと考えています。そのためには、中央から地方へと権限と財源が委譲され、地方が特性や資源を活かして、自らの意思で、考え、実行する自律型地方主権の社会へと、地域のことは地域で決めるパラダイムに転換させていかなければならないと考えます。

差し当たっては、地方にとって必要不可欠な道路などの早期のインフラ整備や、中小企業が元気になる振興策を一層充実させることが、結果として地方の財源を増やし、格差是正の解消に繋がるものと考えています。

京都では、今月、京都高速の油小路線、5月には新十条通りが開通します。大山崎から沓掛間の京都第二外環状道路など、まだまだ整備が必要な道路が多くありますが、今年が京都市内に初めて都市高速道路が走る、歴史的な年であることは間違いなく、経済界にとりまして大変喜ばしいことと思っております。

喜ばしいことと申しますと、京都サンガが一年でJ1への復帰を果たしました。今年のJ1の舞台では、京都唯一のプロスポーツチームとして、京都が多いに盛り上がり、街全体が元気になるような活躍を期待したいと思います。そのことでサッカースタジアムの課題も良い方向に進むと考えています。

(ニュー京商ビジョン)

さて、私ども京都商工会議所では、会員の95%を占める中小企業の皆様に元気になっていただく処方箋として「知恵産業の まち・京都の推進」を基本方針とするビジョンを策定しました。京都には生活文化に根づいた昔からの人々の生き方の知恵が豊富に蓄積されています。この京都ならではの特性をベースにして、新しい「科学・技術」、「匠の技」、「デザイン」を融合させ、これからの社会の新たな生き方・暮らし方・街のあり方にかかわる社会ニーズを満たすための知恵を加え、新たな価値を創造していく、すなわち、知恵を付加価値の源泉にして、京都らしい、時代に合ったビジネスモデルを構築するお手伝いをして、何とかして新しい時代の日本のモデルになる産業をつくりたいと考えております。

私は「高い文化と学術を有する創造的都市は、その時代の産業に革新を起こす」ということを持論としておりますが、まさしく京都はそのような都市であります。これからも創造的都市として京都が生きた街であり続けるため、私ども京都の経済4団体は、連携を一層密にして京都府・京都市とも手をたずさえ、社会からの信頼に応え、活力ある地域経済を目指して、努力を重ねてまいりたいと思います。

(京都市長選)

最後になりましたが、2月17日には、本日ご臨席いただいております梶本市長の後任を決める、京都市長選挙が行われます。京都府、京都市、京都経済界が協調して、活力あふれる、未来の京都をつくるために、不退転の決意で臨まれる候補者を応援してまいりたいと思っております。皆様にも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。投票率が重要となりますので、是非投票に行きましょう。

本年が、皆様にとりまして実り多い一年でありますことを心から祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

平成20年1月5日
京都商工会議所
会頭 立石 義雄